

## 社会

## 6年生 | 「武士の世の中へ ～元寇と北条時宗～」

## 話し合い活動で、歴史的事象への多面的な見方や考え方を育む

## 1. はじめに

歴史学習では多くの人物や用語が登場し、つめこみ型の授業になりがちですが、児童が主体的に学び話し合い活動を工夫して取り入れたいものです。

ただ、資料の準備などで多くの手間がかかるようでは、授業に取り入れることは困難です。理想は、児童が手持ちの教科書や資料集をもとに考え、話し合えることです。そう考えた実践例を紹介します。

## 2. 元寇と北条時宗

「元寇」を扱った授業では、元軍と日本軍の戦いの様子や結果、「元寇」が鎌倉幕府の政治に与えた影響について学びます。児童は元軍の兵器や数に驚き、強大な元軍が暴風雨にあって引き上げたことを知って安堵します。そのため、多くの児童が、日本が国を守ることができた要因について、「暴風雨のおかげ」と一面的にとらえがちです。

## (1) 元を退け、国を守ることができた要因を問う

そこで、児童に「元軍は、武器も強力で圧倒的な人数で攻めてきたのに、日本が国を守ることができたのはどうしてかな？」と問います。これまでの学習をもとに「暴風雨のおかげ」と勢いよく答える児童がいることでしょう。そこで、「本当にそうかな？」と問い返したり、違う考えをもつ児童に発言させたりして、児童に問題意識をもたせます。すると児童は、自分の考えを確認し、さらに強化するために、教科書や資料集を新しい視点で読み返し始めます。解説や注釈には、次のような記述があります。

「幕府の執権、北条時宗は、御家人たちを九州に集めて元の大軍と戦いました。」

「時宗の命令で集まった武士たちは、元軍に苦しめられましたが、けんめいに戦いました。」

このような記述や、御家人が必死に戦う絵図をもとに、しだいに「北条時宗のおかげ」「御家人のおかげ」といった意見が出始めます。

## (2) 出された意見の中から、「一番の要因」を問う

意見や理由が出そろったところで、「この中で、一番国を守ることに繋がったことはどれかな？」と問います。児童に決めさせることで、話し合いへの切実感が増します。児童は、出された意見を比較したり関連づけたりしながら、再度考え始めます。「一番大きな損害を与えたのは暴風雨だ」「御家人のはたらきのおかげで元軍を足止めでき、その間に暴風雨がきた」「その全国の御家人を動員したのは北条時宗だ」など、話し合いの中で、友達の見解から違う視点を得ることができます。その後、話し合いをふまえて、再度立場を問います。

最後に、自分の考えの変化や友達の見解なども取り入れながら、ふり返りを書かせます。このようにして、児童に「元寇」についての多面的なものの見方や考え方を促すことができます。

